

寿都町食育推進計画



北海道 寿都町

もくじ

1	計画策定の趣旨	1
2	計画期間	1
3	計画の位置づけ	2
4	寿都町の現状	
	（1）食をめぐる社会情勢	2
	（2）食料生産の現状	2
	（3）食文化	5
	（4）健康状態	5
5	寿都町の食育のめざす姿	7
6	食育に関する基本目標	8
7	町の取り組みの状況	9
8	食育推進にあたっての数値目標	10
9	寿都町食育推進委員会	
	（1）策定スケジュール	11
	（2）食育推進委員名簿	12

1 計画策定の趣旨

現代の食事は、外食産業やインスタント食品の普及により利便性が向上していますが、一方でエネルギーや脂質、塩分の過剰摂取や野菜不足など、栄養が偏りやすい食事でもあり、肥満や生活習慣病など心身の健康を損なう危険性が高くなります。このような食事は、近年子どもから高齢者まで手軽で身近なものとなっているため、食事による健康問題は全年代に共通するものといえます。

このように、食に関する課題が多く存在する時代であるからこそ、『様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てる』※食育を推進する必要があります。寿都町でも関係機関、団体を含め町民の皆さんと協力しながら、効果的な食育の取り組みを推進するため「寿都町食育推進計画」を策定します。

※食育基本法において食育はこのように定義されており、「生きる上での基本であって、知育、徳育、体育の基礎となるべきもの」と位置づけられています。



2 計画期間

この計画の期間は、平成31年度から平成35年度までの5年間とし、最終評価までの間の平成33年度に食育推進委員会を開催し、計画の見直しを行います。評価の非該当年度でも、事務局のほか栄養士連絡会の場を活用し、毎年度ごとに実施状況の把握・分析を行うことによって、計画を推進管理します。

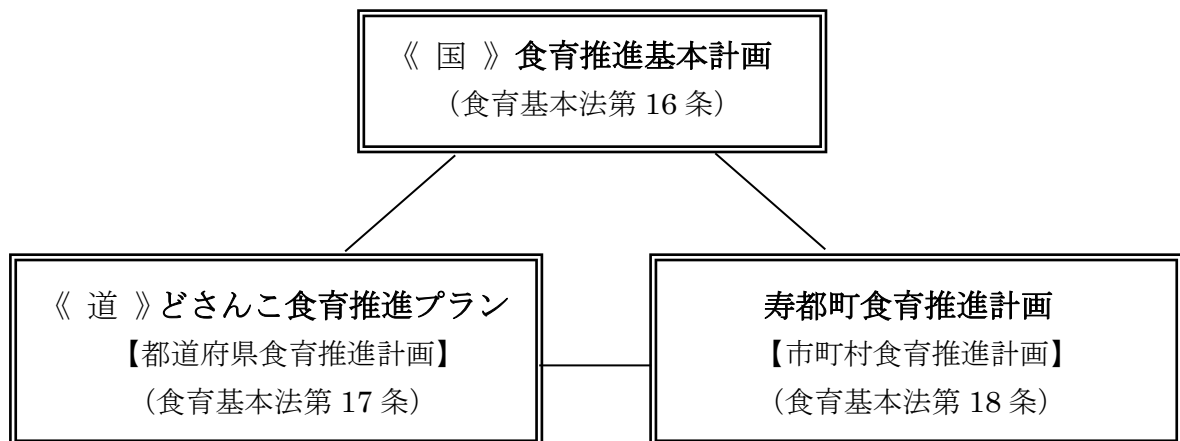
◆計画策定後のスケジュール

平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度
計画推進 開始年度		中間評価		最終評価

3 計画の位置づけ

本計画は、食育基本法第 18 条第 1 項に基づき、国の食育推進基本計画や「どさんこ食育推進プラン」（北海道食育推進計画【第 3 次】）を基本として作成する市町村食育推進計画として位置づけられ、食育を具体的に推進するための計画として策定しています。

◆寿都町食育推進計画の位置づけ



4 寿都町の現状

(1) 食をめぐる社会情勢

寿都町において高齢化は早いペースで進んでおり、高齢者人口が年々増加し、高齢化率は北海道と比較しても常に 10 ポイント近く上回っています。また、核家族化の進行や女性の社会進出の増加がみられ、食の簡便化・外部化が進展しています。

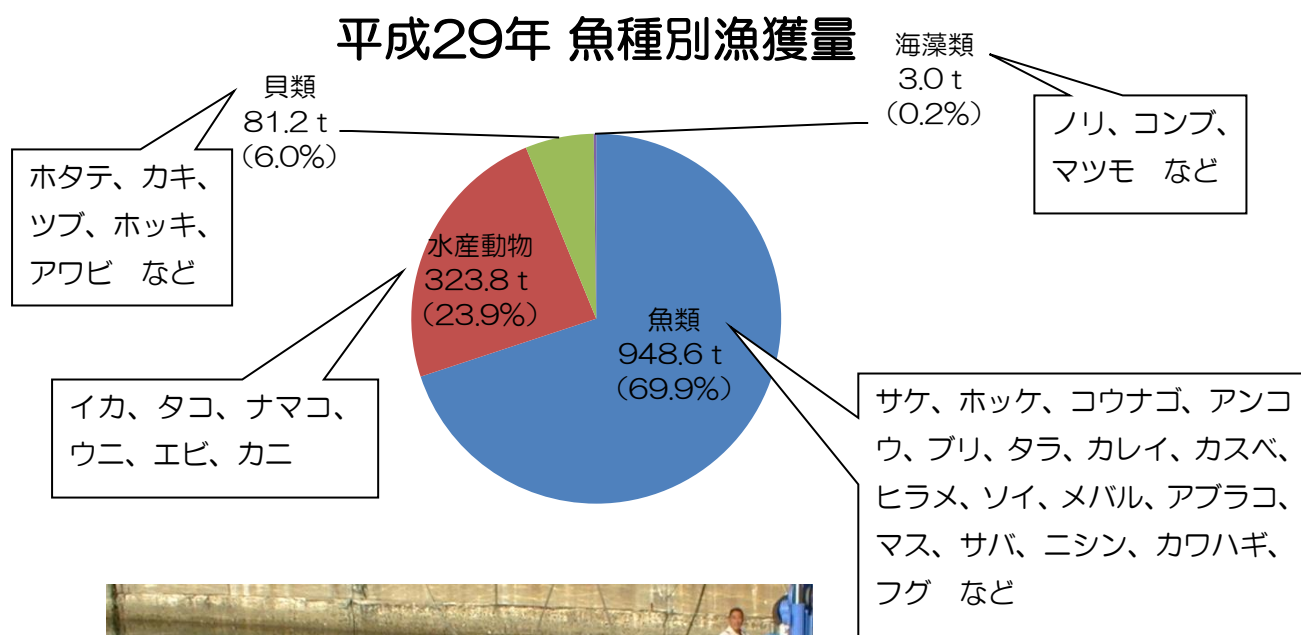
(2) 食料生産の現状

寿都町の漁業は歴史が古く、ニシン漁で栄えた時代から始まり、現在は沿岸漁業を基幹産業としています。水揚げの約 70%は魚類ですが、他にも水産動物や貝類、海藻類など幅広く展開しています。近年は資源量の減少や海洋環境の変化に伴い漁獲量は減少傾向ですが、ホタテやカキの養殖などの「育てる漁業」や漁獲物の高付加価値化に力を入れ、漁業生産力と漁業所得向上を図っています。

寿都町を代表する水産資源はカキ、ホッケ、小女子（コウナゴ）の3つで、これらを活かしたさまざまな加工品や食事メニューのブランド品を開発し、町民をはじめ多くの方に親しまれています。



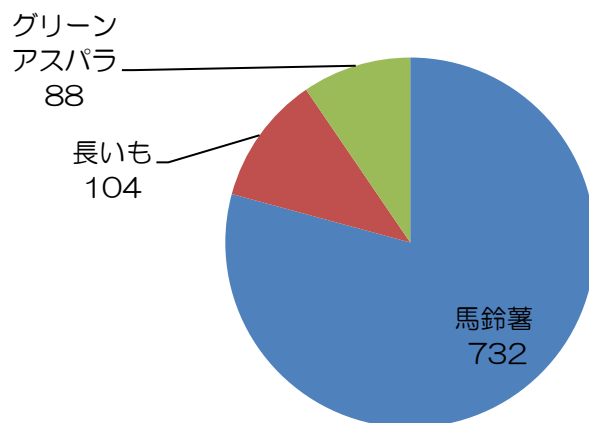
◎名産の寿かき、
ホッケ、小女子



◎ホッケ漁の様子

農業は、小規模農地による経営が主体で生産性が向上せず、後継者不足や高齢化が著しく進み、農家戸数も減少しておりますが、主な収穫品目は馬鈴薯で、他にも長いも、グリーンアスパラがあります。

平成29年 品目別金額（万円）



新しい農業スタイルとして、通年での施設栽培（バジル）をモデル事業により実施し、電気に係る費用は、再生可能エネルギー（風力）を有効活用します。

今後は、「風のバジル」として、ソースやドレッシング、水産加工品とのコラボによる新商品開発などブランド化を推進します。

◎風のバジル
イメージ



(3) 食文化

食生活の多様化や簡便化が進む中で、これまで先人から受け継がれてきた伝統的な食文化が失われることが懸念されています。寿都町においては、寿都湾で獲れた新鮮な食材を伝統の製法で製造する「生炊きしらす佃煮」や「ナマコの甘露煮」、「ほっけ飯寿司」、「くじら汁」など、各家庭で受け継がれる味があり、四季が感じられる名物です。これらを伝承しさらに発展させていく必要があります。

また平成 23 年にはご当地グルメとして、寿都を代表する地域資源であるホッケを活用した「寿都ホッケめし」が誕生し、町内の飲食店や学校給食で提供されています。

◎ほっけ飯寿司



◎生炊きしらす佃煮

◎寿都ホッケめし



(4) 健康状態

寿都町の平成 29 年度特定健診の結果から、肥満者の割合は男性 41.1%、女性 33.1% (40~70 歳代) で全国 (男性 31.4%、女性 21.0% : KDB システム) と比べて高く、肥満者の多い北海道 (男性 36.3%、女性 23.3% : KDB システム) の中でも高い状況です。

高血圧症、脂質異常症、糖尿病の有所見者割合だけ見ると、全国・全道と比べて同程度、または低いですが、患者数や治療者の割合を見ると高く、治療により数値はコントロールできているものの、生活習慣病の罹患者が多いという現状です。

◆有所見者割合（平成 29 年度） ～特定健診結果より

	受 診 者 (人)	収 縮 期 (%)	拡 張 期 (%)	血 糖 値 (%)	HbA1c (%)	LDL-Cho (%)	中性脂肪 (%)
全国	7,278,877	45.8	18.9	22.3	56.7	52.5	21.8
全道	209,734	46.4	19.7	22.5	55.5	53.5	20.8
寿都町	348	37.1	12.4	37.5	42.1	42.5	18.1
40 歳代	46	26.1	17.4	19.6	17.4	37.0	26.1
50 歳代	64	23.4	14.1	28.1	15.6	40.6	21.9
60-64 歳	65	13.8	7.7	20.0	20.0	50.8	16.9
65-69 歳	92	47.8	8.7	40.2	47.8	41.3	17.4
70-74 歳	81	48.1	7.4	34.6	53.1	42.0	12.3

◆患者千人当たりの患者数（平成 29 年度） ～K D Bシステムより

	高血圧症 (人)	脂質異常症 (人)	糖尿病 (人)
全国	398	213	341
全道	409	235	348
寿都町	573	269	377

食生活においては、全年代で共通する課題として、野菜不足が挙げられます。1 日の摂取目標量の 350 g は疎か、毎食で野菜料理を食べることができていない方が各年代で多いです。またジュースやお菓子の摂取が習慣となっている方や、海岸沿いという土地柄もあり多塩食品を毎日食べる方の割合も多く、生活習慣病を発症しかねない食習慣がみられます。母親世代では牛乳・乳製品の摂取習慣がない方が多く、子どもでも牛乳の摂取不足が目立つことから、家族の食習慣が子どもに与える影響は大きいことが窺えます。



5 食育に関する基本目標

食育をめぐる現状と課題などを踏まえ、寿都町では食育の推進を効果的に図るため、次の2つの基本目標に基づき食育を推進します。

基本目標Ⅰ 町民の健康づくりにつながる食育の推進

野菜の摂取不足や塩分・糖分の過剰摂取など、食事や間食における栄養の偏りは、肥満や生活習慣病の危険因子とされています。町民一人ひとりが生涯にわたって健康で豊かな生活を送るためには、規則正しい食生活を身につけることが必要です。食べ物と心や身体を知るとともに、適切な食品の選択や調理の実践などにより、乳・幼児期から高齢期までの健康の維持・増進につながる食育の取組を推進します。

基本目標Ⅱ 未来を担う子どもを育む食育の推進

食育はすべての町民に必要なものですが、特に子どもたちに対する食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性を育んでいく基礎となるものです。そのため、保育園や学校、各家庭での活動により、健康的な食事を楽しんで身につけることができるよう、食に関して指導・学習する機会を増やしていきます。

また各種体験活動を通じて、生まれ育ったまちの伝統的な料理や食材を知り、地産地消の大切さを学ぶ食育の取組を推進します。



6 寿都町の食育のめざす姿

『 ことぶきのみやこ（寿の都） 』

こ・・・子どもから大人まで

と・・・取り組もう 元気で豊かな食生活

ぶ・・・武器は 寿都のおいしい食材

き・・・気にしてる？ しょっぱい味付け

の・・・飲み過ぎ注意！ 甘いジュース

み・・・みんな大好き お菓子は控えめ

や・・・野菜も忘れず たっぷり食べよう

こ・・・声をそろえて「いただきます」「ごちそうさま」



◆町民の健康づくりにつながる食育の推進

9

8 食育推進にあたっての数値目標

	現状値	目標値（平成 35 年度まで）
野菜を毎食食べている者の割合※1	男性：16.4% 女性：36.4%	男性：30.0% 女性：50.0%
食事の味付けで“薄味”を心掛けている者の割合※1	男性：17.4% 女性：27.3%	男性：30.0% 女性：50.0%
毎日ジュースを飲む習慣のある者の割合※1	男性：39.3% 女性：27.8%	男性：20.0% 女性：10.0%
肥満者の割合※2	男性（20～60 歳代）：41.2% 女性（40～60 歳代）：28.0%	男性（20～60 歳代）：28.0%以下 女性（40～60 歳代）：24.0%以下
保育園での地場食材の活用状況※3	48 品	増加
学校給食での地場食材の活用状況※3	58 品	維持
魚食推進イベントの開催状況※4	30 回	維持
児童向け料理教室の開催状況	0 回	開催回数の増加

※1：平成 29 年度いきいき健診食事アンケート結果

※2：平成 29 年度いきいき健診結果

※3：平成 29 年度

※4：平成 30 年度



◎すつつ寿かき・しらすフェスティバル



◎地場産物を活用した給食～ホッケめし
(平成 30 年)

9 寿都町食育推進委員会

(1) 策定スケジュール

年度	平成30年度					
月	4	5	6	7	8	9
委員会		第1回 食育推進 委員会開催		第2回 食育推進 委員会開催		計画（素案） 書面協議
事務局	協議委員の 決定	骨子作成	課題抽出・ データ収集	導入部作成	計画（素案） 作成	計画（原案） 協議・作成

平成30年度					
10	11	12	1	2	3
				第3回 食育推進 委員会開催	
計画（原案）協議・作成				町長へ報告	製本印刷、 配布

○第1回食育推進委員会（平成30年5月30日）

＜協議内容＞

・計画策定について ・策定スケジュール ・町の現状と課題

○第2回食育推進委員会（平成30年7月5日）

＜協議内容＞

・町の課題とそれに対する各課の取り組み

○第3回食育推進委員会（平成30年2月6日）

＜協議内容＞

・食育推進計画内容の最終検討 ・今後について

(2) 食育推進委員名簿

	所属	役職	氏名
1	町民課	課長（委員長）	西 弘美
2	産業振興課	課長	瀧山 修市
3		参事	高橋 玲
4	企画課	課長	大川 貢治
5	教育委員会	食育センター長	木村 豊
6		食育センター 栄養教諭	安田 智代
7	保育園	主査	黒萩 智人
8		管理栄養士	築館 しほり

<事務局>

9	町民課	管理栄養士	木村 宜子
10		管理栄養士	渡部 琴乃



寿都町食育推進計画

平成 31 年 3 月

寿都町食育推進委員会

〒048-0406 寿都郡寿都町字渡島町 140 番地 1

TEL : 0136-62-2513

(事務局 寿都町役場 町民課)

FAX : 0136-62-3431